

「お洒落をする」という楽しみ

「おしゃれ」などという言葉ほど自分に似つかわしくない言葉はないと思いますが、しかしマナーとしての「男性のお洒落」はやはり必要なもので、デートするとき用の少しばかりの知識を記載します。

尚、「女性のおしゃれ」は私の妻が専門とするところでありますので、妻に書いてもらおうと思っています。おそらく今度の正月までには何とかしてくれると思いますのでお待ちください。

志成館では「原則制服着用だが華美でない限り私服でもよい」という指導をしております。その本心は野郎どもに（＝広く日本の男性）にもっとおしゃれをしてほしい、イタリアの男性とまではいかなくてよいから、昔の詰め襟や中国の人民服みたいなものではなく、「野暮（やぼ）ったい服装をしてほしくない」という切実な気持ちに根差しています。

私は生まれも育ちも百姓なのですが、そうであればこそ農民やブルーカラーの人たちに本当のおしゃれをしてほしいと願っているのです。「大きなお世話」かもしれませんが。服装や服の色を知るにはヨーロッパに旅行してその服の色合いの美しさを実感する必要があります。早くヨーロッパへ旅行をして、大人や子供の来ている美しい色あいのカラーを見て、ユニクロ色等（失礼）ではない、深みのある色の服をみんなに着てほしいと願っています。もう30年以上前に行ったイタリアの子供たちが来ている服の色は本当にきれいで、日本の貧弱なカラーとの際に愕然としました。現在も高級ブランドの服や装飾品ばかりではなく、買い物バッグやちょっとした身近な小物の色にも大きな差があるように感じます。もちろん多数のヨーロッパから輸入した服や小物が日本にも広がってはいますが、まだ服に対する感受性などには差があるように思われるのです。福岡という地方都市だからそう感じるのかもしれませんが、「みんなもっとおしゃれを楽しみましょう」という私の気持ちがこの項のテーマです（笑）。

【まず、私がどこかで話した「IVYリーグ」についての文章を貼り付けます】

ファースト・リテリング＝ユニクロの社長の柳井さんの講演を聞きに行っていました。ファッション界での60周年の記念式典でのことです。この式典での主賓の中牟田久敬（ひさゆき）さん（＝詳細はわかりませんが、岩田屋の創業者の中牟田家の一人であると考えてください）は、アパレル界では柳井さんの先生筋に当たりますので、柳井さんはとても機嫌良くしかも長く、そして普通では話されないであろう、経営上のいくつもの失敗の話を、オフレコだったので、楽しそうに話されまして、とても勉強になりました。彼の話の分かりやすくしますと、彼をはじめとする経営者たちには「現在も今後も東南アジアが今後の商品販売などのターゲットであり、戦争や国境争いなどせず仲良くして、儲かりましょう」という話でした。当日、柳井さんは、自社製の¥5000あまりのステキな服を宣伝用に着ておられましたが、ネクタイだけはエルメス製で、それを壇上で自慢されていたことがとてもほほえましく感じました。

「IVY（アイビー）リーグとは」

アメリカ東海岸の名門8大学の競技リーグからきた言葉です。

Harvard・Yale・Columbia・Princeton・Brown・Pennsylvania・Cornell・Dartmouthの8大学です。

「教養と育ちの良さを身に着け、地味で保守的な特徴の校風をもつ」と評価されています。

IVYとはレンガにからまる「ツタ」のこと。つまりペギー葉山の名歌（♪ つたの一絡まるチャペールで・・・）のことであり、そのすべての大学が古く伝統があり、校舎がつたに絡まっていることに由来します。リーグは1870年代に始まったフットボールの対抗試合に起源を持ち、1956年にすべてのスポーツ

競技を含めて結成されたものです。これらの学生たちが好んで着るファッションを1955年に国際衣服デザイナー協会が「アイビー・ルック」と名付けてから今日まで続くファッションであります。

ボタンドウン・紺ブレ・ローファーなど、下に掲載している写真のように、子供から老人まで同じ服装なのでとても使いやすく、廉価であるので私もこのパターンで「ブルックス・ブラザーズ」(現在も福岡には何店舗もあります)の服を今も仕事用に愛用しています。ビル・クリントン元大統領なども普段着に使用されており、それ程高価でもありませんので、若い人たちが「今から一生一度の大事なデートに出かける」というときなどに、何を着ていったらよいかわからないときには、このファッションが安全ですのでお薦めいたします。たとへ「古臭い」と言われても「貧乏くさい」という批判だけはまぬかれると思います(笑)。もちろん今のように多種多様のファッション形態がある時代では、このような話が時代遅れで、私のようなおじいさん時代の発想なのかもしれませんし、現代人の皆さん方はイングランドのトラディショナル・スタイルやイタリアンのファッションスタイルの方が似合うと思います。



このアイビー・ルックを参考にして1960年代に日本風にアレンジし、日本版アイビー・ルックとして、「襟の細い、なで肩の、三つボタンの上着」を中心とするファッションが日本で出来上がります。VANでありJ-PRESSやJUNやKENTです。(懐かしい名前でしょう) またアイビーは短いヘアカットも特徴としており、鬢(びん)を切った私のヘアーがアイビー・カットなのです。(笑)。

これらの衣類を製造、販売していたのが中牟田さんであり、そこから仕入れ販売していたのが柳井さんだそうです。その意味では中牟田さんは柳井さんの親分ないしルーツないし恩人にあたります。ユニクロに代表されるファースト・リテリングは「今や世界4位のアパレルメーカー」になったと誇らしげに何度も話されていますが、中牟田さんへの恩義は尽きないようでした。ちなみに柳井さんと同じ年の私は、VAN全盛の時代には、いつも畑で作業服を着ており、かっこいい服装にあこがれて、指をくわえて見ていました。アメリカン・トラッドを着用し始めたのは、そんなブームが過ぎ去った30歳後半からですので、今でもセンスの悪さは隠しきれません。念のために、それでも「過去よりはまだまし」と思い込んでいます。

以上の内容は、私の塾のかわいい野郎ども(=男たち)にいつも話していることです。

【真野博さんによる40年以上前の「男性のお洒落に関する名著」についての紹介】

※この文書は、ここで紹介する真野博さんが昔書かれた書籍に対する、私が書いた「お礼状」になっており、それを一部省略改訂した文書になっています。真野さんは「東京目黒ロータリークラブの重鎮」で、2年前私が連絡するまではご健在で、この本にまつわるいろいろな楽しい話も、お電話を通じて、していただきました(笑)。この文書の後に、表紙や目次、そして「本文の一部」をコピーして貼り付けます。

このようなノウ・ハウ本は書店にいくつもありますので、どれか1冊「自分のお気に入り」を見つけるのが、今後の人生の強い味方になると思います。まだ真野さんのこの本でも十分通用します。

今から40年ほど前の当時、「日本中の若い世代で大好評だった」、いつかは必ず昔若者であった、RCの会員の方々に紹介しようと思っておりました、「男を磨く169の作戦」と「(続) 男を磨く179の作戦」

という本の紹介を、内容の面白さや素晴らしさ、そして内容の格調の高さともに、みんなに話をする事ができました。結果は予想通り「大好評」で、もっと話を聞きたいとか、どうしたらこの本が手に入るのかという質問、さらに書籍の詳しい内容についても具体的な質問がありました。

私はずっと昔にこの2冊の書物入手して何度も読み直して、日々の生活の行動基準や発想の基準として生きてまいりました。この本の内容の豊かさや発想の面白さ、人間らしさなどは言葉で述べられないほど素晴らしく、おかげでいつも自分自身に自信が持て、誇りが持て、どんなに苦しい時や悲しい時にも心に余裕をもって生きることができました。また仕事や人間関係で悩んだときや何か新しい発想が必要な時に、何かしら心の中に少し遊び心がありなおかつ色っぽい発想がふつふつとわいてくる自分があるのを感じていたのですが、久しぶりにこの本を開いて、それが真野先生の心の豊かさのおかげであることに改めて認識しました。ネクタイピンはせず、肌着は付けず、いつもシャネルをもって、家にはシーバスリーガルがどういうわけかいつもおいてあるのです。先生の教えの相当数守ってこれまで生きてまいりました。文中に書いてあるように、ゴルフも下手なままです(笑)。そしていつもそんな自分を「自画自賛」しながら66歳の今日まで生きてまいりました。この若い世代にとっての「聖書」を通じて、間違いなく日本中の多くの私たちの世代の男性の心を豊かにしていただき、たくさんの幸せを与えていただき、そして男を通じて多くの女性を幸せに導いていただいたものと確信しております。

あらためまして

真野博先生、私の人生を豊かにしていただき大変ありがとうございます。

人生でお世話になった人に、例え文書等だけでもお礼ができることほど幸せはありません。これで私も過ごしだけの恩返しが出来て、ひと安心いたしました。・・・この本の本文の中にはロータリークラブの核心部分についての貴重な文章もあり、ロータリアンとしての先生も同時に尊敬しております。

私にとりましては真野博大先生にお手紙を書けるうれしさを感じ、先生の長寿とご健康を願い、同時に東京目黒ロータリークラブのますますのご発展を願って筆をおかせていただきます。本当にありがとうございます。尚、同封しているのはわが博多ロータリークラブのバナーです。会員の皆様にも真野先生に送ることを報告しております。

2016年1月15日

博多ロータリークラブ 2015～2016年度会長 森 英行

真野さんの2冊の本の表紙と続編の裏表紙です



169	紳士は本茶、財商人である	二四八
168	紳士は酒席の中にもあり	二四五
167	紳士は、匿名である	二四四
166	紳士は出しちばり女房を叩き出せ	二四二
165	紳士は一分の塵を持って	二四一
164	紳士は、ゆえあるものを捨て	二四〇
163	紳士は、中年店員と仲良くせよ	二三八
162	紳士は、一言うるさくなれ	二三七
161	紳士は狂気を恐れるな	二三六
160	紳士は道楽せよ	二三五
159	紳士は、もろうだけ働け	二三三
158	紳士は自律的美意識の持主である	二三二
第十一章 紳士に関する12の作戦		
47	男の匂いをフルに出せ	八三三
48	清潔こそ最大の香りである	八三二
49	身体の匂いを消すには	八三〇
50	靴の中にも匂いをいれろ	八二八
51	ニューヨークのダンディはシャネル	八二七
52	毛の密着しているところは気をつけろ	八二六
53	オーデロンはうすめに使え	八二五
54	スキン・オイルは身体に直接ぬりつけろ	八二四
55	香水で爽やかなしい雰囲気を出せ	八二三
56	男は香水よりオー・ド・トワレットを使え	八二二
57	香水をプレゼントする時のための情報	八二一
58	「皮女」のたまり香水を叩け	八二〇
第三章 香水に関する12の作戦		
八三		
第五章 整形に関する21の作戦		
一〇七		
第四章 身体に関する7の作戦		
九九		

【右の表のこの続きが勉強になります】

世界の一流品リスト					
ジャンル	品名	定価(円)	国・産地		
ウイスキー	ブランタイン	三〇、〇〇〇	イギリス		
	ロイヤルハウスホールド	一〇、〇〇〇	イギリス		
	シバスリーガル	八、〇〇〇	イギリス		
	ジョニーウォーカー(黒)	九、〇〇〇	イギリス		
	サントリー・オールド	一、九〇〇	日本		
	カナディアアン・クラブ	四、五〇〇	カナダ		
	シーグラムVO	四、五〇〇	アメリカ		
	ジャック・ダニエル	一〇、〇〇〇	アメリカ		
	シャトール・ラフィット(五九年)	六、〇〇〇	フランス		
	シャトール・マルゴ	二〇、〇〇〇	フランス		
ブランデー	シャトール・オー・ブリヨン	二〇、〇〇〇	フランス		
	シャトール・ディケム(白)	二〇、〇〇〇	フランス		
	クールヴオージェ(ナポレオン)	二〇、〇〇〇	フランス		
	ジン	ビスキー(ナポレオン)	三〇、〇〇〇	フランス	
		ヘネシー(エキストラ)	三三、〇〇〇	フランス	
		ヘネシーブラッドールアラックス	四五、〇〇〇	フランス	
		ゴードン(ドライ)	一、四〇〇	イギリス	
		ビーファイター(ドライ)	一、四〇〇	イギリス	
		キューゼニア	二、二〇〇	フランス	
		パカーディ	二、〇〇〇	メキシコ	
コルバ		一、四〇〇	ジャマイカ		
紅茶		トワイニング	半ポンド 七〇〇	チェコ	
		ブルックポンド	二五〇万	イタリー	
	グラス・エキスポート	五万~三〇万	オーストリア		
	ジーノ・パロルド	五二、〇〇〇	フィンランド		
	スフロスキー	三、四二〇	イタリー		
	オルノ				
	アルテ・ミード				
	照明器具				
		スタンド			



キスを誘うような歯をつくらう

つまり、唇を合わせることは心を通い合わせることを意味するのである。
今の若い娘たちの中にも、そういう考え方も持っているのを見て、「肉体は与えても、心は与えていない」という。昔も今も、女の唇には生命があるようだ。
「どうして日本の女はどこもかもチャーミングなのに、歯がきたないのだろう」
くやしけれど、アメリカの男が日本へ来てこういった。
男だって、これと同じことがいえる。
歯が美しいことこそ、誠の愛を語れる資格を有した人なのである。
鏡を見て歯がきたなかったら、歯医者へ行つて相談しよう。
歯をきたなくして、本当の「KISS」

59 男は目でいくのが一番いい
男の魅力は目にある。
インド人のあのすき通るような目を見ると、どんな女でも「すてき」というだろう？
もちろん、あれは民族的なものからくるんだけど、つくることが出来る。
美しいものを見ること。
これだ。
美しいものなら、なんだってよい。
陶器、刀剣、絵、風景、写真etc
通端の石コロでもよい。アバラ家でもよい。君の心をうち、「馬鹿な男」が「ツマラナイ」と見過ごしてしまうような、「なんでもないもの」に心をうたれる君の目は、必ず美しいはずである。
もちろん、今すぐにそれらを美しいとか、

心がうたれるとか感じられるはずはない。
それを養うためには、自分の生きる目的をしっかりと見つめ、生きぬく決意をかためることだ。そういう生活の中でのみ、本物を美しくと見る目が養われ、君の目は美しく光り輝いてくる。
虚眼にだまされるから、結婚生活は失敗し、女性は一生涯をノロイ、亭主は九十年の不作をなげくのである。
60 キスを誘うような歯にしる
歯の美容院というのがある。
いわば、歯医者さんが美しい歯をつくりだすことだけを目的にしたクリニックである。
昔の婦人はキックスはさせても、キックスはさせなかった。

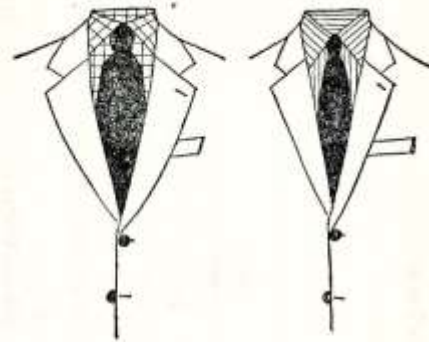
ヨーロッパの一部の国では「歯並の矯正」は国家政策で、すべて無料になっています

159 紳士は、もたらうだけ、働け
今日モーレッツ・ビジネスマンといわれる人は、自ら律する道徳を持たぬヤカラというほどの意味であろう。
森鷗外の「礼儀小言」という文章の中に、日本人は、外国人に対して恥ずかしいという意識はありすぎるほどであるが、自らが自らに対して恥ずかしいという気持が稀薄であるということが書かれていたが、つまり他人がどう思おうと、自分で自分が恥ずかしいという気持が皆無に近いということである。
こうしてみると、△田舎者▽に対する言葉は△都会人▽ではなく△紳士▽であり、紳士とは、自律的美意識の持主ということになるといえるのではなからうか。

人の生活を見てみると、多忙というより、もつとワリのわるい愚忙の中で息もたえだえになつていくかのように思われる。自由業の場合、働けば働いただけ一枚いくら一回いくらのピースウオークとはいえ、収入は大きくなるが、今日のモーレッツ・ビジネスマンには、そうした△大実▽は伴っていないのである。
エリート・エクゼクティブと口当りはいいが、結局はただの名にすぎず、所詮は会社の使用人であつて、上は社長からは下は平社員に至るまで、ただひたすら会社という観念を肥らせるために、すべてを捧げて生きているだけのことである。おまけに社会のピラミッドはすでに完成されていて、△異例の抜擢▽だの△経営者の目にとまる▽だのということとは、すでに△紳士▽にすぎないのだ。

158 紳士は自律的美意識の持主である
今日のように、日本の首都である東京で、石を投げれば地方出身者に当たると世の中となり、しかもその地方へ都会からの人間が団地単位で流れこみ、その間を四通八達した高連道路がつなぐというありさまとなると、もはや田舎とか都会とかいふ表現さえ、おぼつかないものになつてくるはずなのに、そうした過程の中で当然廃滅して死語となるべき△田舎者▽という言葉がまるで不死鳥のように、いつでもその灰の中からよみがえつてくるのは、なぜなのか？
かつては△田舎者▽に対する反対語はいうまでもなく△都会人▽であつた。しかし、都会と△田舎とが都市対抗野球的な対立条件を失つた今日、△田舎者に対する反対語としてはも

はや都会人では正しくなく、当然△紳士▽が対置されなければならないはずである。
今日高度成長をとげた日本人は、世界中からエコノミック・アニマルと呼ばれ、その呼び名が英語のせいか、一部にはいくらかいい気持になつてゐるムキもあるようだが、このアニマルという言葉は、正しく翻訳してみれば、やはり△カッパ▽であらう。さもなければ△ゴサク▽か△ダンベ▽である。つまり、△商売カッパ▽、△経済ゴサク▽、△輸出ダンベ▽ということである。金儲けのためには、たとえ笑われても罵られてもやりぬくという姿勢は、アニマルなど上品に呼ぶより、やはり△物欲カッパ▽とでも呼ぶほうがふさわしいと思われる。
つまり、ここでいうANIMALというの



ネクタイは背広の巾と襟の大きさに決まる

ノータイのラフスタイルでいたいと一生の間
考えつづけているからだ。

それにもかかわらず、この無用の長物であるネクタイが、なぜすたれないのかといえば、やはりネクタイが背広服とワイシャツとの関連において、すでに一体のデザインを形成しているからであろう。その証拠にワイシャツを着てノーネクタイの姿を、私たちはやはり「異様」に感じる。

そこで、ネクタイを選ぼうとするとき、背広との調和が問題になるが、背広の色がネクタイの色とのバランスを要求する以外に、もっと大事な原則がある。それは背広の肩幅と襟の大きさを計算に入れるということ、肩幅と襟が広いときにはネクタイの方も肩幅のものを、肩幅と襟が狭いときにはネクタイも

小幅のものを合わせることだ。

もちろん流行によって幅広ネクタイがハバをきかせているときもあろうが、スタンダードなおしゃれのABCとして覚えておくのも損はない。

93 彼女にはネクタイ作戦で近づけ

「自分で自分の首をしめる」というのは、言ってみればバカだということなのに、われわれ男性は毎朝これを実行しているのだから、バカな話だ。

しかし、なぜそのバカなことがやめられないかという点、ネクタイこそは男性にとって唯一の色彩感を示せる場所であるからなのだろう。

つまり、自分の趣味というものを、自分の色

に対する好みというものを、男はここでしか他人に伝達することができないわけで、いわばネクタイは男の趣味や嗜好のショーウィンドウの役目を果たすものといえる。
裏を返せば、キミに初めて逢った彼女は、キミの胸のあたりにあるネクタイによって、趣味や好みをとっくりと鑑賞しているということになる。感受性のある彼女の心を得ようと思えば、まず無言でネクタイ作戦から試してみよう。

94 ネクタイと言わずクラヴァットと呼べ

一六五六年、フランスのルイ十四世が、その当時王の警護を受けもっていたクロアト（今日のユーゴスラビア）出身の兵隊たちが、首に布をまいて垂らしていたのを見て、

155 クルマはやめて自転車で行こう

よく考えてみると、この世の中でクルマで走りまわらなければ生活ができないということとは、つまりは文字通り八火の車Vの生活、すなわち貧乏な生活ということになりはしないだろうか。

クルマがステータス・シンボルと言われてその価値をもっていたのは戦前までである。今や、道へ出ればクルマの洪水、公害の発生源で、クルマをステータス・シンボルと思うのは、ムスタングガリカンカーンを悠然とすべ

ッカー用、レーサー用の競争車、目的地で組みあげる折りたたみ車と、このほか幼児子供用に至っては数知れず……などなどの多くの基本の機種がある。

これはほんの基本の基本で、これらの基本種に付属品の電装品、空気ポンプ、変速器とアクセサリーがふえてくると、いやいや、変速器も二段変速、三段変速から、十段変速まであって、「たかが自転車」のほずもファッションの多様さは目をみはるばかりである。

植木屋のおじさん用の実用車ばかりが自転車だった時代は、かくのごとく、とうにすぎた、今や、恋人用の二人乗り車、旅行用の折りたたみ車、美容用の一輪車の時代なのである。

自転車は、タイヤの直径で大きさ（つまり

るがごとく流れるがごとく乗りまわせる人種にまかせよう。

チャチな、出足とスタイルばかりの宣伝でアクセク車を売りつけられるのは、もうよしにして、これからの人間回復は思いきって、自転車で実現するのだ。

一人分のスペースを十人分取るクルマより、一人の力が力のすべてである自転車で、道草に目をとめ、心をとめる。これこそが意志あるクルマである。

この自転車について、一機種しかイメージが浮かばないようではキミも相当時代遅れだ。自転車のファッションも今や、実用車から軽快車、スポーツ車、ミニサイクルの一般用にはじまって、二人乗りのタンデム車、一輪車（これはもちろん一人乗り）、サイクル・サ

座高の高さにもなる）を表わし、一インチ二五・四ミリの単位にして、二〇インチとか二六インチとかいう。実用車は二六インチでミニサイクルは二〇インチから二十二インチのものだ。ミニサイクルは、タイヤの太さが細くて買物のカゴが前部についているもので、婦人に利用者が多い。

サイクル・サッカードは、自転車を乗りまわしてサッカードをすること。新しいスポーツである。こんなスポーツこそ、やがて、おしやれで先取り感覚の若い青年たちのモチモチなスポーツになるにちがいない。自足で走るよりもスピードがあつて、しかも大地と接してできるスポーツだからだ。

値段は各機種二万から四万円くらいまで。同じメーカーの同じ機種（銘柄）のもの

の味を知らない男女って不幸だぜ。

61 女と会うときは爪を切れ

爪を見たまえ。
伸びてないだろうか。
爪は伸びると、先がこすれて細くするどくなり、ちよつとさわっても粘膜はカミソリで切ったように切れてしまうものである。
第一、カニいからと自分の身体をかけた丈だけ、切れてしまうだろう。

という程である。

竹筒している爪の美しいのはもちろんである。そのため色に染まっても、紺屋高尾のような絶世の美人がはれて嫁にきてくれる。爪の美醜は、従ってゴツゴツしているとか、

と、同じ男としてイヤになる。

身長の長短、体重の軽量に關係なく、サツソ一とした歩き方の男に、女って案外魅力を感じものなんだぜ……。

吉田茂元首相など、あの小さい男の歩きっぷりの立派だったこと。男って自信だよ。

まず、真つすぐに立とう。

その時に腹をつき出すような気持ちで立つと、背骨は伸びる。胸もそりかえる。

次に、そのままの姿勢で腹に力を入れて、へこませてみよう。

どう？ 胸が出て、お腹がへこみ、腰が前へ出て、なにか背が高くなったような気がするだろうか？

そのまま、腰から、サツと前へ出るように歩くんぞ。そう、重心を、真つすくなまま前

色がついているとかではなくて、それはそれなりに手入れされているかどうかにある。

ナニ、簡単である。

いつも手は石ケンで洗って清潔にしておき、爪は切って、ヤスリをかけて、ミルク・ローションをつけておくといい。

爪に無色のエナメルをぬるのは、写真の現像とか、爪に色がついておかされる職業の人などが、オシャレより保護の目的でつけたいもの。

62 歩き方で女はほれる

なんとまあ下手くそな……というより生気のない歩き方をしている男が多いんだらう。腰を曲げて、足をひきずり、生活に疲れたような「ドタドタ」歩きをしているのを見る

へ移動させるようにしてコツコツと歩く。

こういう歩き方をしていると、腹は出っぱらないし、自信あり気に見えるから、女の子にはモテるし、人にはたのもしく、頼り甲斐があるように見えるのである。

これが男の歩き方である。

63 腹をへこませて歩くようにしろ

相撲取りは腹へ相手をのせて釣出しをするから、腹は出っぱらなくちゃならない。

そこで、いつも腹を出して歩き、たくさん食べるので、出っ腹になる。
反対にプロレスなどは腹筋をきたえておかないと、なぐられ、けられるから、すぐにへばってしまう。

ボクシングでも同じこと。腹をやられる

66 男の顔を決めるのはバランス

顔の美のデッサンの基準とその矯正法の基本的なものは、一応あるが、人間をみんなに当てはめて考えるわけにはいかない。というの、どうなっているのが美しくて、どうなっていないからである。美醜の問題はもっと複雑なエレメントがあるからである。これを論じたしたら、際限がない。

が、美醜の問題については、顔の形勢的特徴とその人の性格の間にバランスがとれている場合を美しい顔と考え、その反対に、バランスがとれていない場合を醜い顔だと考えている。

たとえば大きな丸い顔に、小さな目、鼻、口が中心に集まっている顔は、これはアンバ

ランスで美人の顔とはいえない。このように、顔の美醜は均衡感、調和感が重要要素にならなければならない。

古来、美とは何かについて、哲学者はさまざまな定義をしてきた。が、哲学者の美意識の数だけ美があるという結論以外、何も得られない。美とは単純に「バランスのとれていること」と考えていい。だから、美しい顔というのはバランスのとれた顔である、と考えていい。

面長には面長の、角顔には角顔の、丸顔には丸顔のバランスというものがある。これを発見し、バランスの欠けたところを矯正するのがメスを使うおしゃれ、美容整形である。顔の美のデッサンのために必要なバランスの基準は何か。

俗に顔のことを目鼻だちというが、顔の美容整形の上でも、目と鼻が最も重要なポイントになっている。

67 整形はまず心から

人間の顔のタイプは、大体、六種類ある。丸形、逆三角形、長方形、菱形、三角形、四角形、といった分類である。長方形の顔を丸形に変えたり、丸形の顔を長方形に変えたりすることは、遠い将来、美容整形外科の領域で技術的に必ずしも不可能ではないかも知れない。が、かりにそうなったところで、美容整形で自由に顔型を変えることが妥当かどうか、疑念がある。

そこまでゆくと、美容整形の概念を逸脱するように思われる。

なぜなら、美容整形手術は人間をデフォルメ(変容)することではなく、その人間が本来所有している容姿に医学的メスを加えることによつて、本人に新しい美を発見させ、自信と期待を付加しようとするものだからである。

あくまで、生得の顔、自分の顔が主体なのである。自分自身の新しい美を発見させるお手伝いをするのが、美容整形なのである。自分の顔が、まったく別の似ても似つかぬ他人の顔になることは、美容整形として望むところではない。

手術の結果、自分自身が自分自身を大事にしようと思いはじめ。そうした精神的モチーフを与えるのが美容整形の副産物の目的なのである。この意味で、美容整形は患者の肉體

にしろ、要は「相手に不愉快な思いをさせないこと」がマナーでありエチケットなのだから、さほど気をつかう必要はない。

例えば「お茶づけ、サラサラ」というように、お茶づけを音もなくのどへ流しこんだんではいかにも食べましたという気はしないし、ザルソバをかみしめかみしめ食べたのは伸び切ってしまったソバみたいで感心しない。

ところがあべこべに、立派な宴席で、スープをズーゾー音を立ててのんでみたまえ。まわりの人は「ゲーッ」もので食欲などわくもんじゃない。

食事でも飲みものでもみんなが食事を楽しめるためにマナーやエチケットが自然と決つたものだから、「自分がイヤだな」と思うこと

い。もし僕がさわわれたとしよう。

相手は僕がなにかからのみ始めて、次になにをのむか全く知らないから、自分がいつもやっているコースの通りに事を運んでしまおうけれど、「オーイお鈍子二本につき出し」ところがあいにくと、僕の毎日の生活のリズムでは、一日が終わって一杯のむ時は必ずビールを一本あけてから次のウイスキーなり日本酒なりへ移るのであって、決つて初めから、ウイスキーや酒には手を出さないのだ。

そして酒を二本位のむと、あとで決つてビールで再度の仕上げをすることになつていく。

これはウイスキーをのんでも同じことだ。そして、実はこのペースを乱されると、もう外でのむ気はしなくなつてしまふのだが、

を相手にはしないように心がければよいのである。

「食事はおいしく食べるもの」これにまさる作法はないのである。

困っている人があればその苦しみをとりぞいてお互いに食事をおいしくする。そういう思いやりが即エチケットなのである。

キミの普段の生活態度、それが自然とマナーになつてあらわれてくるのであつて、つけやキ刃では駄目なのだ。

171 ゴルフのハンディを上げるな
ローター・クラブのうたにこんなのがあら。

奉仕の理想につどいし友よ。
み国にささげん我等のなりわい

連れていったほうはおかまいなしで自分のペースでことを運んでしまふから、あまり知らない人とはのむたくないわけだ。

時に、今日は一寸、調子が良いと思つてもつとのおみしたい時に、「さあ、これでおつもりにしようか」などといわれるとガクッとときてしまふ。

どうせ酒をのむなら、相手のこういうクセを聞き出すか、余つてもいいから、酒とビールを最初にとるかかすべきで、「ごちそうとは思議なもので余らせて始めて「アア、ごちそうになつた」と感ずるものなのだ。

170 エチケットとは相手に不愉快な思いをさせないことである
酒のみのマナーにしろ、会食のエチケット

【下】真野さんのRCに関する

173 男なら自信をもって「男に醜男なし」といえ

拭く程度で終るから一〇日、一〇〇日の間には手の届かないところは真黒け。油虫もゾロゾロ。しかも料理の棚下し、整理もろくにしないから、買い置き忘れて捨てたり、古いのをつかつたり……。

キミたちが学生時代、かたづけを母親まかせにした習慣が会社に入つては掃除機まかせにし、職場に入つては、他人まかせになり、自分の生活度を低下させ、ひいては職種によつては、職場を失わせることになるのである。まず自分の身のまわりのものを整理整頓することから男を磨くことは始まらなければならぬ。

求むは世界の平和、めぐる歯車いや輝きて求連に榮えよ我等のローター、ローター人間は自分の仕事に一生懸命になるから社会的な進歩はあるんだし、自分の仕事を通じて社会に奉仕するから世の中は明るくなるのである。

もしか、これがなくなつたら世の中は明るくならないし住みよくもならないだろう。

ところで笑止千万なのは、近頃、猫もしゃくしもゴルフゴルフと大さわざ、駅のホームでカサの柄をクラブのヘッドに見立ててライ・ショットの練習をする奴がいるかと思えば、列車の中へ、どでかいゴルフバッグを持ちこんで、席を、アミ棚を占領して声高に今日のスコアを自慢し合い、商品の品定めをやつてござる。

今の女より昔の女のほうが男を見る目があつたようだ。

今のお年寄り達は結婚する時には必ず、「男に醜男はないのだから」といわれて結婚を結得したものである。

「男に醜男なし」とは男の甲斐性を実に見事に表現しているわけで、男は願ひもなく、その人間の生き方、仕事、によって良し悪しが決るといふわけだ。

男にとつてみれば願ひがないからどんな美人でも手に入れることが出来るわけで嬉しい話であつたわけだ。

ところが今はどうだろうか？

「男に醜男なし」どころか、娘達はただ恰好の良さにあこがれ、男の子だか、女の子だかわからない歌手にキヤキヤいってさわ

かと思うとハンディがいくつ上つたなんて自慢たらたら。

冗談じゃないってんだ。ハンディが上つたということは仕事に精を出さないで、仕事をさぼつて練習場へ通ひコースへ通つたからじゃないか！

172 つねに自分の身のまわりをきれいにできる男になれ
レストランやクラブの食堂を見たら恐ろしく諸君は物を食べる気にはならないだろう。

なぜなら「かたづけ」教育を受けていない連中は最も基本的な「自分の職域は自分の城」と考えて愛情をもって磨き、清潔にすることを知らないからだ。

仕事が終わればチョコッとマナ板のまわりを

